

第86回 Inter-high Team

第86回全国高等学校

女子団体、「接戦となりましたが、勝負所で、点数を取れたことが大きかったです。木村、梅村が中学校から団体戦負けなしで終われたことも良かったです」と村田充史監督。
準優勝の明德義塾も、敗れはしたが、井、三村、里川、船場と全員が素晴らしい試合をみせた。

選手権 (インターハイ)

7月28日～8月2日
郡山総合体育館

第86回全国高校卓球選手権大会が、7月28日～8月2日まで、郡山総合体育館で行われた。男子団体決勝は、連覇を狙う愛工大名電と、初優勝を狙う遊学館が対戦した。試合は、トップで宮本春樹(愛工大名電)が川村大貴と対戦。両者ともに、やや硬さがみえるが、宮本が最後まで攻撃し、先取点をあげる。2番はエースの木造勇人(愛工大名電)が素晴らしいプレーで勝利し、王手をかける。勢いに乗った愛工大名電は、ダブルスも勝利し、連覇を達成した。敗れはしたが、遊学館の勝ち上がりは見事であり、勝負に「たら、れば」は禁句であるが、後半勝負のオーダーだっただけに、後半にまわっていたらわからない内容であった。

男子団体
優勝

5連覇を達成
四天王寺



安定したドライブ攻撃で、
主将としての意地をみせた
木村香純

Team Girl's

団体戦を勝ち上がるにあたり重要なダブルスで勝利を重ねた梅村優香(左)・塩見真希

コース取りが良く、連続攻撃が冴えた
三村優果(右)・井絢乃



回転量の多いドライブと
気持ちを前面に出した
プレーをみせた
里川奈優



準優勝
明德義塾



3位
愛み大瑞穂

思い切りの良い攻撃で、
コンビネーションが良かった
秋山星(左)・野村萌



3位
遊学館

打点の早い連続攻撃が
良かった
出雲美空(左)・千葉菜月



Best 8 Girls



希望が丘
連続強打が随所に決まった
柴田理沙(右)・岩越帆香



就実
広い守備範囲で、強打を
何本も返した山本真由



武蔵野
カット主戦ながら、タイミング
良く攻撃を仕掛けた黒野芽衣



横浜隼人
フォアハンドの攻撃を積極的に仕掛けた
笹尾明日香(左)・杉本恵

男子団体
優勝

愛工大名電



単複に出場し活躍した木造勇人(左)・高見真己



熱の入った
アドバイスを送った
今枝一郎監督

Team Boy's



準優勝
遊学館

フットワークが良く、パワフルな攻撃を
見せた、出雲卓斗(左)・
五十嵐史弥

「笑顔」を忘れず、挑戦者として
決勝に挑む。
盛り上がりを見せるベンチ

インターハイでは初の決勝に進出



3位
野田学園

鋭いスイングからの
両ハンド攻撃が良かった
沼村斉弥



3位
希望が丘

単複に2点起用。
前半に出場し、勝ち星を重ねた
吉田海斗



Best 8 Boys



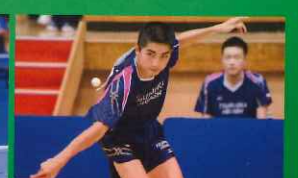
東山
緻密な連続攻撃をみせた
田中虹太郎(右)・福本卓朗



大阪桐蔭
フットワークを活かしたフォア
ドライブをみせた菅沼湧輝



明德義塾
回転量の多いドライブをコーナーに
打ち分けた西康洋(左)・佐藤弘毅



鶴岡東
内田涼哉は、愛工大名電戦で
勝利をあげた

2年連続16回目の
優勝を達成

女子シングルス決勝は、梅村優香（四天王寺）と岩越帆香（希望が丘）が決勝で対戦。

両ハンドドライブを軸に勝ち上がってきた岩越に対し、梅村は持ち前の鉄壁のブロックと変化でミス誘い、繋いできたボールを攻撃するという戦術を徹底する。ナチュラルに変化する梅村の返球に、岩越のミスが目立ち、最後は梅村のスマッシュが決まり、嬉しい初優勝を決めた。

ベスト4には、秋山（愛み大瑞穂）、岡崎（川口総合）が入った。



ナチュラルに変化する返球で嬉しい初優勝

女子単優勝
梅村優香
(四天王寺)

打たれても何本でも返す鉄壁のブロックと攻撃がかみ合い嬉しい初優勝。「出雲さん（遊学館）にはこれまで勝つことがなかったので勝てたのが大きい」とコメント

Singles Girl's

準優勝 岩越帆香（希望が丘）



↑しっかりとフォームで、安定した両ハンド攻撃をみせた

→
秋山星（愛み大瑞穂）
中陣にさげられても、しっかりと回転をかけてリズムに違いを生み出す戦術をみせた

第3位



第4位

→
岡崎日和（川口総合）
基本に忠実でミスが少なく、足を使った攻撃を展開



第5位



塩見真希
(四天王寺)
フォアハンドのスマッシュ攻撃は威力があり、バックハンドの攻撃も丁寧であった

第6位



千葉菜月
(遊学館)
安定した両ハンド攻撃に加え、打点が早く、コース取りもよかった

第7位



松岡優香
(慶誠)
独特のリズムから繰り出す両ハンドドライブを厳しいコースに打ちわけた

第8位



野村萌
(愛み大瑞穂)
打点の早いバックハンドの連打攻撃を軸に、リズムを掴んだ

男子シングルス決勝は、木造勇人（愛工大名電）と戸上隼輔（野田学園）が対戦。

準決勝の金光（大原学園）戦を接戦で下したもののなかなか調子の上らない木造であったが、決勝では、持ち前のセンスある両ハンド攻撃が随所で決まり、団体・ダブルス・シングルの3種目で優勝した。「絶対に優勝する気持ちで、特に団体戦で優勝したかった」と木造。優勝後は大きなプレッシャーから解放された。準優勝は戸上。打点が早く振り抜く両ハンド攻撃は威力満点だった。

ベスト4には、金光（大原学園）、田中（愛工大名電）が入った。



団体・複・単の3種目で優勝

男子単優勝
木造勇人（愛工大名電）

抜群のボールタッチと鋭い両ハンド攻撃は威力十分。「プレッシャーが凄かったです。調子もそこまで良くなかったので、嬉しい気持ちもありますが、ホッとした気持ちの方が大きいです」と謙遜



Singles Boy's

準優勝 戸上隼輔（野田学園）

高見真己
(愛工大名電)
両ハンド攻撃は威力があり、台から下げられてもチャンスメイクがうまく、得点につなげた

第5位



柏友貴（関西）
動きが素早く、連打ができるフォアハンド攻撃は威力十分であった

第6位



蛭田龍
(希望が丘)
前陣での量み掛けるような攻撃は、打点が早く、コース取りもよかった

第7位



沼村育弥
(野田学園)
インパクトが強く、打つコースがわかりにくい両ハンド攻撃がよかった

第8位



第3位



↑振り抜く両ハンドドライブは威力十分。強打がしつらい台上ドライブも威力があった

←
金光宏暢（大原学園）
フットワークを活かしたフォアハンド攻撃は威力十分。優勝した木造とも接戦を演じた

第4位



←
田中佑汰（愛工大名電）
ミスが少ない的確なプレースタイル。ラリー戦にも強く、オールラウンドで戦えるプレイヤー

女子ダブルス決勝は、井絢乃・三村優果(明德義塾)と笹尾明日香・杉本恵(横浜隼人)が対戦した。井・三村の打点の早い攻撃に対し、笹尾・杉本は、しっかりと回転をかけて得点を重ねていく。素晴らしいラリー戦が幾度も展開されるが、井・三村がわずかに上回り、涙の優勝を決めた。「絶対に優勝したくて、運がつくような行動をしてきました。2人で優勝できたことが嬉しい」と両者。



一度攻撃をはじめれば、鋭い弾道で繰り出すドライブを連打した

Doubles Girl's

女子複優勝

井絢乃(左)・三村優果(明德義塾)

打点の早い攻撃で井・三村がうれしい優勝

準優勝 笹尾明日香(左)・杉本恵(横浜隼人)

動きが早く、左右にボールを散らされてもしっかり対応していた



第3位 森本枝里(左)・白神ひかる(白子)

安定したドライブ攻撃を軸に、接戦を制し、表彰台へ



第4位 梅村優香(左)・塩見真希(四天王寺)

気持ちの入ったプレーとコース取りが光った



第8位 三上莉々(左)・福士希(五所川原商)

左のカット主戦型と右利き攻撃型のペアは、対戦相手を苦しめた



第7位 板花美和(左)・大島奈々(愛み大瑞穂)

台上プレーをそつなくこなし、ブロックからの展開もよかった



第6位 秋山星(左)・野村萌(愛み大瑞穂)

ピッチの早い両者は、積極的に攻撃を仕掛けた



第5位 金崎愛美(右)・田中咲子(希望が丘)

しっかりと回転をかけるスタイルで、ミスが少なかった

男子ダブルス決勝は、木造勇人・高見真己ペアと田中佑汰・加山裕ペアの愛工大名電同士での試合となった。激しいラリー戦となるも、勝負所で、木造・高見の攻撃がコース良く決まり、得点をあげる。田中・加山も台上からチャンスを作るも、最後は木造・高見の攻撃が上回り優勝を決めた。



台上プレーが良く、ラリー戦も強く、コース取りもよかった

Doubles Boy's

男子複優勝

木造勇人(左)・高見真己(愛工大名電)

木造勇人・高見真己&田中佑汰・加山裕 愛工大名電同士での決勝

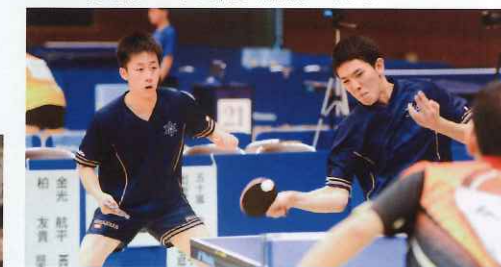
準優勝 田中佑汰(右)・加山裕(愛工大名電)

田中のオールラウンドなプレーと加山の鋭い攻撃がよかった



第3位 出雲卓斗(左)・五十嵐史弥(遊学館)

回転量の多い両ハンド攻撃は、コートに突き刺さるような弾道で、威力があった



第4位 西村星哉(右)・深沢太陽(浜松修学舎)

フットワークを活かし、フォアハンドで積極的に攻撃をしかけた



第8位 熊本竜己(右)・浦口耕太郎(日南学園)

動きが素早く、ドライブのコース取りがよかった



第7位 渡井丈人士(右)・川上尚也(静岡学園)

気迫あふれるプレーとフォアハンド攻撃は威力十分



第6位 柏友貴(左)・金光航平(関西)

柏の攻撃力は威力があり、金光もチャンスメイク、強打が光った



第5位 宮本春樹(右)・田原彰悟(愛工大名電)

ミスが少なく、カウンターとなる展開でも、コース取りがよかった

第86回
Inter-high
Doubles